



Title	《私たちの秘密のお庭》 仁愛保育園とのart project
Author(s)	前田, 博子
Citation	デザイン理論. 2023, 81, p. 74-75
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91074
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《私たちの秘密のお庭》仁愛保育園との art project

前田 博子 仁愛女子短期大学

はじめに

仁愛女子短期大学¹の真向かいに仁愛保育園が建設されることになった。2021 年 7 月建設予定地に仮囲いが設営され、白い大きな壁が建てられた。その仮囲いを使ったワークショップを仁愛保育園の園児たちと行うため、直接交渉した。コロナ感染拡大予防の影響もあり、外出や移動が制限された子どもたちの遊び場を提案し、実施した。本プロジェクトを進めていくうちに人が人を呼び、新たなプロジェクトへと変容する様を研究成果としている。

じんあいはいくえん art garely の設置²

- ① 園児に絵を描いてもらう。
- ② 下絵データを作成し、カットティングシートに加工。
- ③ カットティングシートを仮囲いに貼る。
- ④ 3-5 歳の園児宛に招待状を渡す。
- ⑤ 39mm³の円に切ったカラフルなシール、マスキングテープを用意し下絵を頼りに自由に貼ってもらう。

工事車両が行き交う平日は避け、土、日、祝日だけの開催とした。感染拡大を防ぐため参加者が密にならないよう、無人ワークショップとしている。実施日：2021 年 12 月 11 日（土）、12 日（日）、18 日（土）、19 日（日）、25 日（土）、26 日（日）、2022 年 1 月 8 日（土）、9 日（日）、10 日（月）、15 日（土）、16 日（日）

園児は「おともだち」が描いた下絵を頼りに、新たな線や色を足していた。園児とその家族の主体的な参加によって交換日記のような画面が毎週描

かれ、物語の続きが毎週更新された。他者の造形や色彩から間接的な対話の痕跡が残った。子どもたちがシールやテープを貼ることで彩りが加わり、白い大きな壁は私たちが出会った軌跡を伝える壁に変容した。

シール剥がすよの会の実施

2022 年 1 月 21 日（金）本プロジェクト実施の条件が現状復帰であったため、年長の子どもたちと貼ったシールやテープを剥がした。（図 1）子どもたちが帰った後、保育士や本学職員がシールやテープを剥がしてくれた。素人では剥がしきれないものもあり、悪戦苦闘していると人が人を呼び、通称「シンナーおじさん」が登場し、剥がし方のコツや道具を教えてくれた。



図 1 子どもたちがシールを剥がしているところ

参加証ハンカチの配布

「シール剥がすよの会」の翌日壁は完全に撤去された。子どもたちと共有した壁と時間を共有するものを作成するため、壁画から図案を作成し、ス

クリーンプリント4版を作成した。作成した柄を《見知らぬ女性からのおすそ分け》⁴にスクリーンプリントしたものを子どもたちへの参加証(図2, 3)とし、140枚制作した。共有できるモノ、コト全てを《私たちの秘密のお庭》としている。卒園生には2022年3月26日(土)の卒園式に配布してもらい、年中、年少の園児には翌年度2022年5月に配布してもらった。年長用は同サイズのを人数分用意できたが、古布を使用しているため年中、年幼分は同じサイズのを人数分用意するのが難しかった。そのため、プリントの仕方を変え、4版使用しない1-2版ものや柄の一部のみをプリントしたものをつぎはぎした。結果的に全てが一点物となった。卒園生用のハンカチは卒園式の前日に納品したため、お迎えを待つ子どもたちによる緊急品評会が実施された。(図4)その時の会話からこれらは記憶を辿るアイテムへと変容していた。

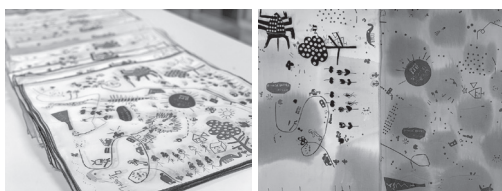


図2, 図3 参加証のハンカチ



図4 緊急品評会の様子

お礼の会とお礼のお礼の会実施

2022年6月23日(木)園児たちがハンカチのお礼を持ってきてくれた。お礼の手紙と元気な「ありがとう」をもらったからには何かお返しをと、同

日お礼のお礼の会を実施した。スクリーンプリントの仕組みと大学での学びをレクチャーしたのち、学生の考えた柄をプリントした反物を子どもたちに裂いてもらった。(図5) 私たちの物が私の物になる瞬間となり、世代をつなぐ物へと変容した。(図6)



図5 子どもたちが裂いた布

おわりに

子どもたちに託したモノ、コト、変容した物、事をきっかけに創造され、共に成り立つ社会が循環する仕組みであるとすれば、私たちはその一助であり続けなければならない。



図6 Sustainableという言葉覚え、上手に畳めたよの報告

註

- 1 以後、本学と記す。
- 2 仁愛女子短期大学研究紀要第54号, pp.23-28, 2022
- 3 「サンキュウ」という意味を含ませた。
- 4 今は亡き女性が集めていた布や糸を筆者が共有資料として保管しており、それらの材料を用いて他者へ所有と使用を譲るもの。2019年～。